

琵琶湖湖南流域 水害に強い地域づくり協議会 行動計画書（1次案）

（自分で守る ・ 地域で守る）

1. テーマ	地域の水害ポテンシャルを皆で認識し、安全なまちづくりを進める																							
2. テーマ設定の背景	<p>(1)災害のポテンシャルについての情報の共有化が図られていないために、地域が災害に対して脆弱になる恐れがある。</p> <p>(2)このような状態を脱し、安全な地域をつくるためには、住民と行政・行政内部の組織間での連携が不可欠である。</p> <p>(3)このような連携を進め、安全な"まち"をつくるためのリーダーシップの形成・組織化・行動計画の作成を行う。</p>																							
3. 各グループの戦略および作戦	<table border="1"> <tr> <td rowspan="5">防災</td> <td>戦略： 防災情報の共有と一元化。</td> </tr> <tr> <td>作戦1 住民を含め防災情報を共有化する。</td> </tr> <tr> <td>作戦2 情報の一元化を図るために、情報を整理する。</td> </tr> <tr> <td>作戦3 自主防災組織を整備し、地域リーダーを育成する。</td> </tr> <tr> <td>作戦4 住民と共同で浸水危険度マップを作成する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">農政</td> <td>戦略： 農地を保全する。</td> </tr> <tr> <td>作戦1 防災機能があること、生態系を保全する上で農地が重要であることを伝える。</td> </tr> <tr> <td>作戦2 安心して農業に従事できるよう共済制度を整えとともに、担い手育成を図る。</td> </tr> <tr> <td>作戦3 情報に対応できるよう施設のオートメーション化を図る。（見に行かなくても田畑の様子が見えるようなシステムも）</td> </tr> <tr> <td>作戦4 農業施設の適切な維持管理。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">都市計画</td> <td>戦略： 住民との協働による水害に強いまちづくりプランの策定。</td> </tr> <tr> <td>作戦1 情報を地域住民に伝え、水害の危険性を認識してもらう。</td> </tr> <tr> <td>作戦2 住民主導となる地区計画に水害対策の整備計画を取り入れる。</td> </tr> <tr> <td>作戦3 行政側の共通認識を持った上で、住民参加による都市計画マスタープランに、水害に強いまちづくりを掲げる</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">土木</td> <td>戦略： 浸水箇所の公表。</td> </tr> <tr> <td>作戦1 浸水想定と同時に費用対効果を伝える。</td> </tr> <tr> <td>作戦2 多様な浸水想定シナリオ作り。</td> </tr> <tr> <td>作戦3 取れる対策についても住民に伝え、理解してもらう。</td> </tr> <tr> <td>作戦4 各種申請時に、事前に上記内容を理解してもらう。</td> </tr> </table>	防災	戦略： 防災情報の共有と一元化。	作戦1 住民を含め防災情報を共有化する。	作戦2 情報の一元化を図るために、情報を整理する。	作戦3 自主防災組織を整備し、地域リーダーを育成する。	作戦4 住民と共同で浸水危険度マップを作成する。	農政	戦略： 農地を保全する。	作戦1 防災機能があること、生態系を保全する上で農地が重要であることを伝える。	作戦2 安心して農業に従事できるよう共済制度を整えとともに、担い手育成を図る。	作戦3 情報に対応できるよう施設のオートメーション化を図る。（見に行かなくても田畑の様子が見えるようなシステムも）	作戦4 農業施設の適切な維持管理。	都市計画	戦略： 住民との協働による水害に強いまちづくりプランの策定。	作戦1 情報を地域住民に伝え、水害の危険性を認識してもらう。	作戦2 住民主導となる地区計画に水害対策の整備計画を取り入れる。	作戦3 行政側の共通認識を持った上で、住民参加による都市計画マスタープランに、水害に強いまちづくりを掲げる	土木	戦略： 浸水箇所の公表。	作戦1 浸水想定と同時に費用対効果を伝える。	作戦2 多様な浸水想定シナリオ作り。	作戦3 取れる対策についても住民に伝え、理解してもらう。	作戦4 各種申請時に、事前に上記内容を理解してもらう。
防災	戦略： 防災情報の共有と一元化。																							
	作戦1 住民を含め防災情報を共有化する。																							
	作戦2 情報の一元化を図るために、情報を整理する。																							
	作戦3 自主防災組織を整備し、地域リーダーを育成する。																							
	作戦4 住民と共同で浸水危険度マップを作成する。																							
農政	戦略： 農地を保全する。																							
	作戦1 防災機能があること、生態系を保全する上で農地が重要であることを伝える。																							
	作戦2 安心して農業に従事できるよう共済制度を整えとともに、担い手育成を図る。																							
	作戦3 情報に対応できるよう施設のオートメーション化を図る。（見に行かなくても田畑の様子が見えるようなシステムも）																							
	作戦4 農業施設の適切な維持管理。																							
都市計画	戦略： 住民との協働による水害に強いまちづくりプランの策定。																							
	作戦1 情報を地域住民に伝え、水害の危険性を認識してもらう。																							
	作戦2 住民主導となる地区計画に水害対策の整備計画を取り入れる。																							
	作戦3 行政側の共通認識を持った上で、住民参加による都市計画マスタープランに、水害に強いまちづくりを掲げる																							
土木	戦略： 浸水箇所の公表。																							
	作戦1 浸水想定と同時に費用対効果を伝える。																							
	作戦2 多様な浸水想定シナリオ作り。																							
	作戦3 取れる対策についても住民に伝え、理解してもらう。																							
	作戦4 各種申請時に、事前に上記内容を理解してもらう。																							
4.	<ul style="list-style-type: none"> ・住民をいかに巻き込んでいくのか ・どういう組織を作っていくのか <p>協議会を設置して、住民・行政組織間の連携をすすめていく</p> <p>本協議会がまさにそうでは？</p>																							

琵琶湖湖南流域 水害に強い地域づくり協議会 行動計画書

(自分で守る ・ 地域で守る)

1. テーマ	行政と住民が連携・協働し住民自らが判断し、行動するための体制づくり	
2. テーマ設定の背景		
3. 各グループの戦略および作戦		
防災	戦略：	自分で守るための基礎づくり
	作戦 1	精度の高い避難勧告づくり
	作戦 2	防災情報の有効伝達手法検討
	作戦 3	本当に安全な避難所づくり
	作戦 4	住民の防災意識の向上
	作戦 5	ハザードマップの有効活用促進
	作戦 6	災害時の対応手法検討
農政	作戦 7	有効な自主防災組織づくり
	戦略：	農業者・集落が自ら判断できるシステムづくり
	作戦 1	保水機能の確保（山林・農地・ため池等の保全）
	作戦 2	気象情報等（雨量・水位等）の収集・伝達
都市計画	作戦 3	判断基準の作成・周知
	戦略：	土地の特性（地形情報）を知らせ、住民による防災に強いまちづくり
	作戦 1	避難経路や避難地を確保する地区計画による整備
土木	作戦 2	土地利用上の情報を地域住民に伝える
	戦略：	
	作戦 1	事業実施計画・箇所等を市民に伝える
土木	作戦 2	河川の能力を知ってもらう
	4.	

行動計画書作成の経緯

1. 第1回 WG (平成 16 年 9 月 17 日 14:00~17:00)

(1) 議事内容

- ・ 全体説明：第 1 回協議会のおさらい等
- ・ 意見交換
- ・ とりまとめ：グループ討議結果の発表・とりまとめ

(2) 検討内容

- ・ 目的：水害に強い地域づくりのための現状と課題を討議し、認識の共有化を図る。
- ・ 方法：防災、都市計画、土木、農政グループに分かれて、ブレインストーミング及び KJ 法を実施
- ・ 成果：各グループの水害に強い地域づくりのための現状と課題のとりまとめ



2. 第2回 WG (平成 16 年 10 月 27 日 13:15~17:00)

(1) 議事内容

- ・ 事前説明(勉強会)：第 1 回 WG のおさらい、流域の氾濫形態、他流域の事例紹介等
- ・ グループ別討議
- ・ とりまとめ：グループ討議の発表・とりまとめ

(2) 検討内容

- ・ 目的：水害に強い地域づくりのための現状分析と作戦を討議し、四面会議に向けた具体的なイメージを高める。
- ・ 方法：防災、都市計画、土木、農政グループでブレインストーミングを実施し、さらに「地域で守る」、「自分で守る」グループに分かれて四面会議を予備的に実施
- ・ 成果：防災、都市計画、土木、農政グループごとの水害に強い地域づくりのための現状分析と作戦のとりまとめ



3. 第3回 WG (平成 16 年 11 月 1 日 13:15~17:00)

(1) 議事内容

- ・ 四面会議：四面会議の説明、四面会議の実施等
- ・ 全体打合せ：四面会議の結果発表・とりまとめ

(2) 検討内容

- ・ 目的：四面会議により、防災、都市計画、土木、農政部局ごとに出された目標、戦略を突き合わせて段階的かつ実行力のある方策の検討を行い、部局の枠を超えて認識の共有化を図る。
- ・ 方法：「地域で守る」、「自分で守る」グループに分かれて四面会議を実施
- ・ 成果：グループごとの水害に強い地域づくりに向けた目標、戦略、方策のとりまとめ



4. 第4回 WG (平成 16 年 12 月 2 日 13:15~17:00)

(1) 議事内容

- ・ 担当者会議の進め方について
- ・ 四面会議：四面会議の実施、行動計画(1次案)の作成等
- ・ 全体打合せ：行動計画(1次案)の発表

(2) 検討内容

- ・ 目的：四面会議の結果から、水害に強い地域づくりのためのテーマ、防災、都市計画、土木、農政部局ごとの戦略、作戦を取りまとめた行動計画(1次案)を作成し、今後の展開につなげる。
- ・ 方法：「地域で守る」、「自分で守る」グループに分かれて行動計画書(1次案)を作成
- ・ 成果：グループごとの行動計画書(1次案)のとりまとめ

第1回 WG 開催状況

WG 開催にあたって WG の趣旨説明がされた。

避難勧告等、情報伝達の重要性はもちろんのこと、各個人が「自分で判断し、自分で守る」意識が重要である。

情報は染み込むように伝えないと、情報とは言えない。ハザードマップも作ったら終わりではなく、作成過程で住民が参加して内容について十分理解することや、使い方に関して住民と議論するようなことが重要である。

河川整備と都市計画が整合しているとは言えない事例もあるが、滋賀県の場合においても、将来に禍根を残さないためにも、今、何ができるのか、何らかの担保を取っておくことが重要である。

初回は、「水害に強い地域づくり」のために、何が課題なのか、今後何を議論していけばよいかということを出発点として始める。

方法としては、防災、農政、土木都市計画の3つにグループ分けをして、滋賀県、琵琶湖河川事務所がグループリーダーとなり、グループ討議を行い、KJ法によって課題等を整理し、最終的な結果をグループごとに発表した。

その結果は次ページのとおりである。

農政グループ

農地利用と
治水安全度

一般的な安全率でなく、
ダメージの大きい畑地は
安全率を高くすべきだった
のでは。

津田江のポンプはめっ
たに稼働しない。
土地利用を考慮した安
全度の設定。

水がつきそうなところは
畑になっていない。

農地用施設の
防災機能

農地用水路も治水機能
をもたせられないか。

水田には遊水機能もあ
る
排水施設も改良されて
きている。

農地の減少により、いっ
ときの水 洪水が出やす
くなった。

ため池が減ってい
る？！
ため池をつぶして学校
が建てられた。
20ヶ所くらい。

たてわり
一級河川、準用河川、
水路。
管理者が異なる。

農地用施設の維持・管理者
農業者の意識

水路の底ざらえを定期
的に行う。

農業者は生産性を主眼
にしている。
防災意識があまりない。

今は水利組合などの管
理体制ができている。
将来体制が崩れたら、
誰が管理する？
地域で守る。

農業の担い手が必要。

ため池管理者のサラ
リーマン化。
連絡が取れない？！

20年後...
水田の管理者がいなく
なるのでは。

昼間の堰、ゲート管理
は高齢者。

ため池の管理
管理者と連絡を取り
合っている。

治水ゲートは河川管理
利水ゲートは利水者が
管理。
危険時には利水者へ
ゲート操作を連絡。

ゲートの開け閉めによる
上下流の調整が必要に
なるのでは。

ため池や施設の管理。
管理者に任せてある。
当番制、個人...

水利委員による管理
降雨時は役場から依頼
することもある。

水害による被害を少な
くするためには、事前の
情報提供が必要。
情報もらった農業者
が各自で対応。

ファブリダム 100%
うまく稼働する訳ではな
い。

台風の接近や大雨が予
想されるときに、管理者
に注意するよう連絡。
頭取工からも連絡あり。

河川の破堤による被害
は？

予測できないような災
害が起きたときの対応
は？

浸水想定区域図を公表
すべきかどうか迷った。
野洲川安全説がある。
隣の市は出していない。

H7琵琶湖浸水、現状

H7 北山田の浸水
ビニールハウス 2,000
畑地いったん水がつく
と、しばらく作物が作れな
い。

琵琶湖の水位操作
もとから低ければ浸水
はなかったかも(H7)

H7浸水 内水排除のた
め樋門を開けてもらっ
た。

H7の琵琶湖浸水
農地が被害を受けてい
る。
ゆっくり水位が上がる。
対応しやすい？！

排水機
常時排水しないと、水
に浸かるところに設置し
てある。(以前は内湖)

排水機場がないところ
は、個人の畑にポンプ施
設を作っている。

自然の水を応急的に対
応するのは難しい。

連携

自衛隊をもっと(早期から)活用できないか。

防災と土木の連携を進めて行くべき。

警察と消防の連携

近隣市町との連携
野洲川においては、市町の境界により、情報が伝わりにくいところもあるのでは。

河川の現状

今の時点で全閉操作は必要ない。(下流のダム群の効果)

県内洪水(河川洪水と琵琶湖洪水)の仕組みを分析して県・市町村などの全ての関係者が共通理解する。

市町管内の主要河川の洪水の特性(有効雨量と流量の関係や洪水到達時間)を把握しておく。

高い堤防のすぐ下(となり)まで家が並んでいる。

その他

お金がなく改修も難しい。

待機体制が統一されていない。

水害の経験
(避難勧告)

勧告を出す基準がない。

最近滋賀県に水害が少ない。(たまたま)

土砂災害は予測できない。

切れどころが変わっている
新住民が入ってきている等のため、災害慣れしていない。

避難勧告・指示の基準を作る必要があるが、数値等による客観的な基準を作るのは難しい。

何年も避難勧告を出したことがない。

住民とコミュニティー

災害時要援護者の未把握

自主防災組織の形骸化

個人情報の取扱いが市町村でバラバラ。

平時からのコミュニティーづくり(助け合い)が必要
普段面識の無い者同士で協力しあえるとは思えない。

高齢者の避難誘導体制を確立していく必要があるが、プライバシーの問題があり難しい。

住民の危機管理意識の低さ。

水害と地震

防災計画の見直し(震源の変更)
西岸断層帯へ

水害より地震に重きを置きがち。

情報伝達

夜中にどうやって情報を伝えるのか、オオカミ少年になることを恐れてしまう。

情報一元化が大切(気象庁と県の情報)

県、各市町村が、県内はもちろん、淀川流域(特に亀岡、羽束師、宇治、加茂、高浜)のリアルタイム雨量を把握する必要がある。

河川管理者にとって必要な情報が入手できない。
ex. 水防活動状況

知ってる情報を出さないことが問題。(役所だけ情報はあり得ない)

連絡体制どこまで行うのか?

無線の設置がまずすべきこと。

福井豪雨等の教訓が生かされていない。(広報車でまわる)

上下流での情報伝達が必要。
(上流が決壊したとき、下流の市町村に対して)
(下流の市町村は、上流の状況についての情報を収集する、パトロールの結果など)

避難勧告の方法
現状は市広報車と自治会長宅に設置のファクシミリで周知

避難勧告の際の、住民への周知方法(広報車のみ)
どれだけ早く知らせることができるか。

防災無線の早期の整備

ハザードマップ

(区域図では)避難場所が全部水没している。

浸水想定区域図の公表に対して反応がない。

野洲町ハザード・日野川ハザード どう重ね合わせて考えるべきかわからない。

許可をとって開発した土地を危い場所と言えないのか。

土木・都市計画グループ

規制と地価

改善してくれる人かと思われる。土地の評価が下がる。行政の責任逃れ、ぼっといってくれと言われる。

野洲川
田んぼより家
規制ができたらさびれてくる、どうかけるか
浸水想定逆効果

高さ = 事例

大津市
湖岸の開発は
BSL+1.5m以上と規制
他の市町村は

住民

野洲川の周りは元々の人がほとんど。
100年に1回こんなことがあるから土地利用規制を変えようというのは難しい。

浸水想定を必ず売買で使用しないという話もある。
法的にしぼるといことはムリ。
いかに理解してもらうか
危機意識の不足

琵琶湖の湖岸
漫かるということ知らない人もいる。
そういった人に対してどのように伝えるのか。
何か、よい方法はないか

移転した住民にとっては、野洲川改修するから移転してくれと言ったのではないか？
たくさん氾濫するじゃないか。

今まで行政が改修してきたこと。
今さら浸水想定出て氾濫するとは...
住民集会してもあまり議論にならないと思う。

エコトーンについての説明会

連携

地域で避難の仕方
県・市町村がどういう対応をするか。
連携

栗東市...水防団、情報を県から得て早い対応はしている。

水防団・消防団との連携難しい。

市町村は土木と河川のものしかきていない、HMのことなら

規制判断
町で？

草津市、中主、守山
湖辺域の調整区域
高さは規制なし
抑制している

人口増
住みやすさ
白地はほっといてよいのか。
エコトーン再生プラン

1haを超えるものについては調整池
その規制を箇所によって変えていくのか？
町ごとにできるのが課題になっている。

(承認可)
(建築確認)
官庁 言えばしっかりする
民間 " 条件を作るときに浸水想定が影響する。

実際漫かっているのなら問題となっている。
漫かるから移ってくれとはちょっとちがう。

市街化区域
していく・いていかないの判断
野洲川
市街化区域と重なっている。
そういったところをどう考えるかが課題

平坦なところ
湖岸浸水が一部
HM検討していかないといけない。
市街化100ha
田んぼの冠水が多い
合併しているんな面で検討していきたい。

浸水想定区域
5mのしぼりをかけていくのか

市町村が土地利用全体を考える時に支援

ハード面を優先
都市計画をどうするのか、あまり頭がない。
中で、防災を考えるのは難しい。

市街化に指定する判断が難しい。
野洲川が市街化と重なっている。

福井豪雨out

・市街化区域がある
・雨が降ると一気に流出
・天井川が多い
・HM 草津は浸水想定対象外 どう対策するのか

どうして逃げたらいいのか。
浸水性
自治会長は心配している

住むならどうしたらいいのか。
福井・新潟が降ったらお手上げ。
実際滋賀県で降ったら怖い。

統括的ハザード

歩く速度
避難の基準が分からない
危険水位の設定をして欲しい。
水害が起きた時、地震が起こったら。

野洲川のHMを使っても意味がない。
違う河川との整合を。
全部の1級河川で浸水想定を出してその上でHMを作るべき。

野洲川 浸水想定
その部分だけのHMを作っても意味がない
野洲川が氾濫したら
他の1級河川はすでに氾濫
全体的に見て湖南地域で一つのエリアで考える必要がある。

地震...事後避難
洪水...事前避難
・氾濫してから逃げるのではない
・この地域は危ないから事前に逃げよう
浸水深の浅い人

第 2 回 WG 開催状況

第 1 回 WG において、参加者は河川の専門家だけで構成されていないこともあり、検討を始めるにあたって、河川の基礎知識、琵琶湖周辺地域の洪水特性に関する勉強会を行った。

この勉強会をふまえ、第 1 回の WG で抽出した課題、さらには解決方策について防災、農政、都市計画、土木の 4 グループに分かれて、ブレインストーミングを行った。

各グループの「水害に強い地域づくり」のための現状分析、解決するための作戦をとりまとめた結果は次ページのとおりである。

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">土 木</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">達成目標</div>
--	---

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">作 戦</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 避難勧告を出す基準をつくる </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 開発許可時での開発許可権者と ・ 河川、下水道の相互の調整 ・ 各市町村相互の調整 (河川、水路等のどこが危険なのか) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報交換 ・ 連携(予測) ・ シミュレーション ・ 意味のわかる情報を出す (水防だけでなく) ・ ポンプのマンホールどこ？ ・ 水資源機構との連絡会活用する
--	---	---

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">現状分析</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 避難勧告の出し方 ・ 基準 危険水位の設定 ・ 伝達網 アナウンス後の行政対応 避難場所 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 情報提供 ・ 事業実施する箇所 ひんぱんに しない箇所 放ったらかし しないこと理由を説明する必要性 (予算、優先順位、代替案) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 実際に河川が氾濫すれば、 ・ 「水門を閉めて」等、地元要望が色々と挙がってくる ・ 河川改修計画をきちんと住民に説明を行うべき ・ 内容がわかって初めて 計画の進捗に合わせて対策の検討ができるのでは </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 水防 (消防団と兼ねている場合が多い) 組織がない 水防に関する指示系統はあるが、避難勧告に関する指示系統はない </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 水防と防災組織が分かれているため、組織の一本化が必要 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 水防団 基準 水防協議会 危険水位 防災会 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 中小河川の改修 琵琶湖の整備 市としてどの範囲まで考えるのか 国、県からの情報(レベル、スケジュール) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 整備スケジュール 未整備の期間の対応 情報提供 何も出来ないところは？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 水門閉めて、内水排除 住民への河川計画の伝達 納得できる計画づくり </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 湖岸部 (昔)水 田...氾濫被害 小 (今)宅地化... " 大 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 開発による出水形態の変化 ・ 量の増加 ・ 短時間で 調整池の設置 開発 河川改修という順序 開発が先行しすぎると、改修が追いつかない </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 琵琶湖の水位 守山 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> - 琵琶湖 - 中小河川 草津 中小河川 県の管理 県の河川整備の方針 </div>
---	---	---	--

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">農 政</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">達成目標</div>		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 防災効果の大きい農地を守る！ <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 農地のはたらきを知ってもらう！ <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div> </td> </tr> </table>	防災効果の大きい農地を守る！ <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div>	農地のはたらきを知ってもらう！ <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div>
防災効果の大きい農地を守る！ <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div>	農地のはたらきを知ってもらう！ <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div>		

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">作 戦</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 内水排除施設をつくる (効果を説明する) <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 農地が適正にある地域が防災的に強い 地域 開発から守る <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 施設をオートメーション化 <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 野菜について 共済(補償制度)をつくる <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 農地の効果を広くPRする <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 地域の防災に関する教材をつくり、そ の中でも農地の効果をPRする <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 琵琶湖沿岸の地盤高を情報提供 異常降雨に対して <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <農地経営ハザードマップ> 排水ポンプのコストと浸水被害につい てシミュレーションし、情報を提示 <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div> </div>

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">現状分析</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 野菜経営で生計がたつと担い手も増え る <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 野菜が浸水しても補償はない (水田はある) <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 高価な野菜は浸水する土地では作らな い <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ほ場整備した土地は、農地法で開発が 抑制されているが、宅地が進出してく る <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 作物規制は立地条件と合わない <div style="text-align: right; font-size: small;">地域</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 「施設を見に行ったら亡くなる」とい う、よくあることをなくせないか？ <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 台風などの情報は、事前に連絡されな い <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 琵琶湖水位上昇時のシミュレーション データを知らない <div style="text-align: right; font-size: small;">自分</div> </div>

都市計画	達成目標
------	------

作 戦		
<p>都市計画で開発を規制するのは難しい。</p> <p>都市計画・まちづくりについても、まず情報を地域住民に伝える。</p>	<p>情報の伝え方が難しい。 土地を買おうとする人 売ろうとする人</p>	<p>住民に浸水の危険性が伝わったら、地域から自発的に防災を意識したまちづくりが提案される</p> <p>地区計画に防災を取り入れる行政がサポート</p>

現状分析		
<p>都市計画施設に防水施設があげられているので、このような施設計画を検討することが考えられる。</p> <p>土地利用を図る上での排水能力・貯留施設(調整池が必要) 事業が進まない 民間開発</p> <p>下流域の住民の大きすぎる負担(大きな川を作る事により、より大きな危険) マイナスばかりでプラスがない</p> <p>洪水被害を回避軽減するため、浸水想定区域等については、市街化区域への新規編入は極力行わないことが考えられる。しかし、すでに市街化区域となっている浸水区域については、逆線引き等の対応は難しいと思われる。</p>	<p>直接配水するための計画しかなく、地下に浸透させるとか、自然を利用した貯留機能を持った計画となっていない。都市計画によるものではない。</p> <p>・県土地利用基本計画には、水害も含めて防災という視点が不足している。 ・土地利用を誘導する方法が少ない</p> <p>・浸水区域として計上されている地区の中でも既成市街地が含まれている。 ・個別・具体の施策において、規制をかけることの意味がない気がする</p> <p>地域まちづくりで考える必要有り</p> <p>要綱協議での指導の制限</p> <p>住民にとっては解りにくい 1/10...(雨水) 1/30、1/50、1/100...(一級河川)</p>	<p>雨水排水計画により整備が進められているが、都市計画による土地利用では、浸水対策と一体的な考え方となっていない。 都市計画法開発</p> <p>都市施設としての位置付け(都市計画マスタープラン)</p> <p>(例)大津放水路 将来的な河川改修が、都計総括図では読みとれない</p> <p>1haを超える開発については、河港課と雨水排水協議(調整池の設置など)</p> <p>ミニ開発に対応できない</p>

<div data-bbox="65 172 344 246" data-label="Section-Header"> <p>防 災</p> </div>	<div data-bbox="474 172 753 246" data-label="Section-Header"> <p>達成目標</p> </div>
---	---

<div data-bbox="65 507 344 581" data-label="Section-Header"> <p>作 戦</p> </div>			
<div data-bbox="65 655 520 928" data-label="Complex-Block"> <p>精度の高い避難勧告を出す</p> <ul style="list-style-type: none"> • 勧告基準を明確にする！ (作成する) • 全ての市町村土木防災システムを導入する！ </div>	<div data-bbox="558 655 1010 1225" data-label="Complex-Block"> <p>情報伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> • NHKなどメディアを利用した防災情報提供 特に将来デジタル放送が導入された際は有効である • 主婦や老人など、日中に地域にいる人たちによる情報伝達網を整備する • 防災無線を早期に整備 • ご老人などその地域に密着した方に情報伝達を行う • 情報の一元化 </div>	<div data-bbox="1047 655 1499 1020" data-label="Complex-Block"> <p>住民の防災意識向上</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住民とのコミュニティを持ちお互いに情報交換する • 新しく住み始めた住民ともコミュニティを持ちお互いに情報交換する • 防災について知ってもらう手法を確立する </div>	<div data-bbox="1537 655 1988 1020" data-label="Complex-Block"> <p>連携(行政)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自衛隊を(早期から)活用する • 防災と土木の連携を進める • 警察と消防の連携を高める • 近隣市町村との連携を高める </div>
<div data-bbox="65 982 520 1255" data-label="Complex-Block"> <p>ハザードマップの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハザードマップを有効に活用する • ハザードマップを元に地域住民の意見を取り入れた、詳細版ハザードマップづくり </div>	<div data-bbox="1047 1065 1499 1225" data-label="Complex-Block"> <p>災害時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> • 取り残された人、避難所へ行けない人を救助する手法の確立 </div>	<div data-bbox="1537 1065 1988 1317" data-label="Complex-Block"> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> • 行政が把握する防災情報には個人情報が多く含まれる。セキュリティについては注意し、統一的な基準を設ける。 </div>	<div data-bbox="1047 1264 1499 1406" data-label="Complex-Block"> <p>避難所の安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> • 避難場所は安全にする (安全性確保！) </div>

<div data-bbox="65 1528 344 1602" data-label="Section-Header"> <p>現状分析</p> </div>			
<div data-bbox="65 1676 520 2086" data-label="Complex-Block"> <p>避難勧告について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 勧告しても住民が聞かない • オオカミ少年になる • 勧告基準が明確でなく作成も困難 • 土木防災システムが全市町村に導入されていない • 避難勧告の伝達手段が限られる </div>	<div data-bbox="558 1676 1010 2629" data-label="Complex-Block"> <p>情報伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> • オオカミ少年になることを恐れてしまう(特に夜中) • 上下流の情報伝達が必要 • 情報の一元化が必要 • 連絡体制が未完成 • 行政の防災担当者が県内はもちろん、流域内の雨量(水文)観測施設全てのリアルタイムデータを把握する • 河川管理者にとって必要な情報が入手できない (例：水防活動情報) • 防災無線が整備されていない • 知っている情報を出さないことは問題 • 福井豪雨の教訓が生かされていない • 地域住民になかなか情報伝達が行かない </div>	<div data-bbox="1047 1676 1499 2086" data-label="Complex-Block"> <p>河川現状</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高い堤防のすぐ近くまで家が並んでいる • 管内の主要河川の洪水特性を把握しておく • 県内洪水の仕組みを分析・理解し、行政関係者が共通認識を持つ • 現時点では洗堰全開は必要ない </div>	<div data-bbox="1537 1676 1988 2199" data-label="Complex-Block"> <p>避難所の安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> • 避難所が安全でない箇所がある • 浸水想定区域図では避難所が水没している • 安全な場所を確保したいが出来ない場所がある • 災害は地域性があり、想定した災害に対して安全性について確認しなければならない • 避難所が遠かったり、近くても老人や体の不自由な方は避難が困難 </div>
<div data-bbox="65 2139 520 2579" data-label="Complex-Block"> <p>住民とのコミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住民の災害意識が低い • 自主防災組織の形骸化 • 災害時要請護者の未把握 • 高齢者の避難態勢が確立されていない • 個人情報の取扱いが市町村でバラバラ。プライバシーに問題あり </div>	<div data-bbox="1047 2139 1499 2579" data-label="Complex-Block"> <p>ハザードマップ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 浸水想定区域図を公表しても反応がない • 野洲川町ハザードと日野川ハザードをどう重ね合わせるべきか分からない • 許可をとって開発した土地が危ないと言えるのか？ </div>	<div data-bbox="1537 2252 1988 2579" data-label="Complex-Block"> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> • 防災計画を見直す必要がある • 水害より地震に重きを置きがち • お金がなく改修も難しい • 待機体制が統一されていない </div>	

第3回 WG 開催状況

「四面会議」を実施するにあたっての趣旨等の説明がなされた。

「四面会議」とは、4つのそれぞれ異なった役割の部門を受け持ち、相互に連携を取りながら各自に課せられた部門別テーマに基づいて、部門別の戦略設計を行う。次いで、部門別に検討された戦略を部門間でディベートを行うことによって突き合わせ、相互の整合性をチェックする手法である。

今回は、第2回 WG までの経過を踏まえ、この「四面会議」という手法でグループ別討論（自分で守る、地域で守るの）を実施した。

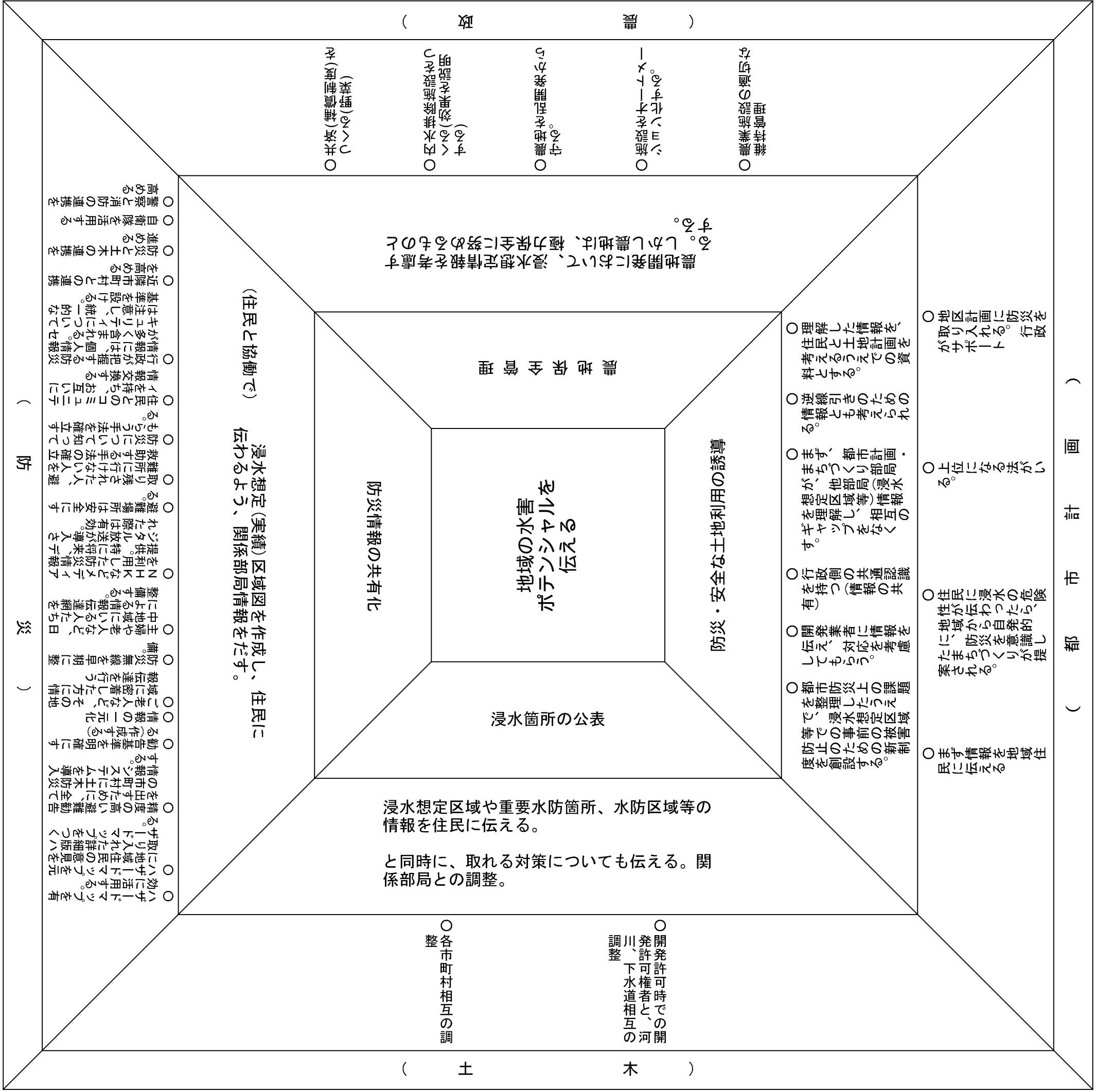
まず、防災、農政、都市計画、土木の4つの部門に分かれて、今までのWGで出された現状分析や課題を踏まえて、最も身近で意見を出しやすい具体的な作戦を部門ごとにどんどん抽出していった。

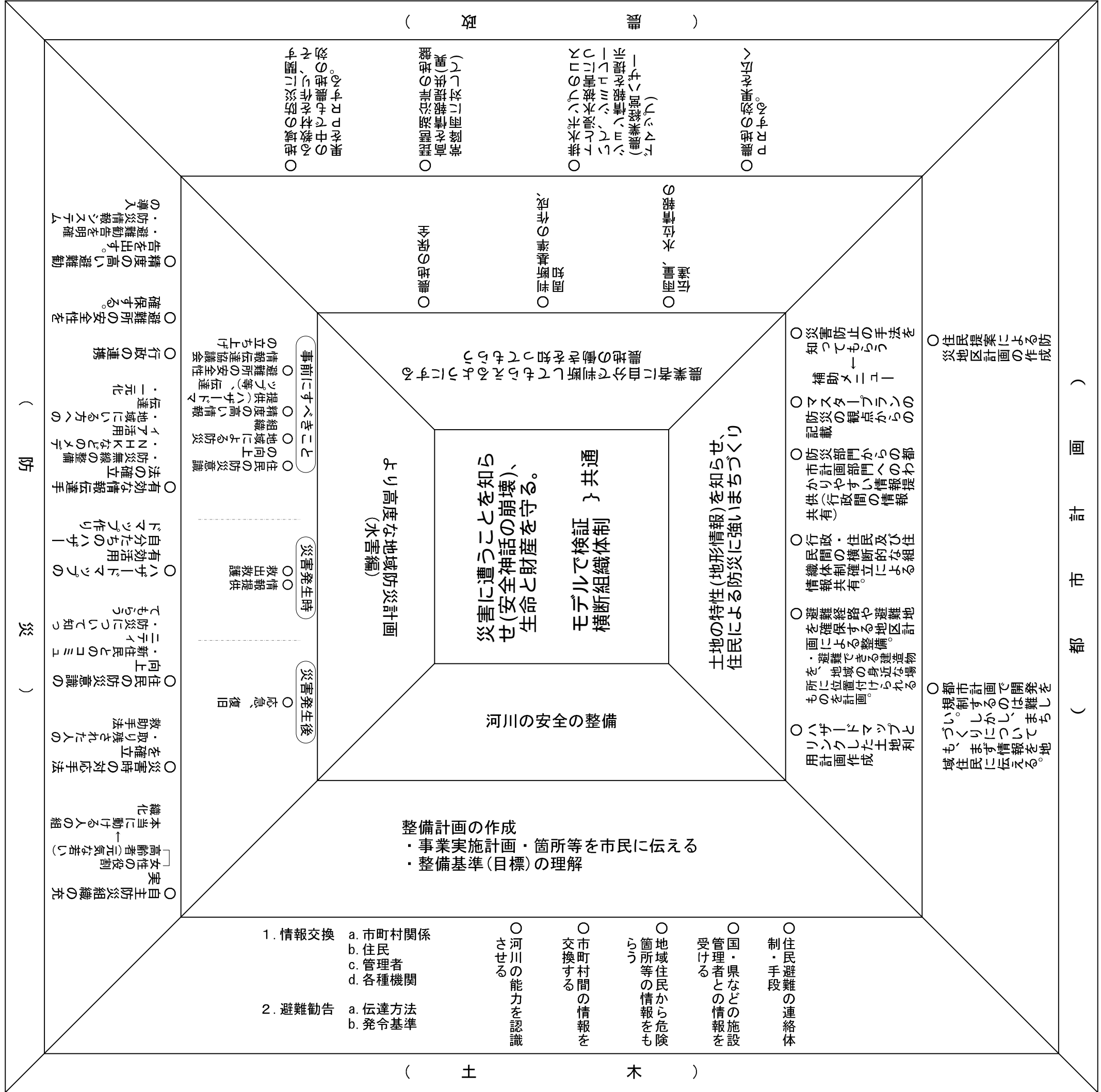
これらの作戦をもとに、「四面会議」の形式で他部門とのディベートを行いながら、中央に位置する全体目標を決めていった。

この他部門との議論を行う過程で、1つの部門だけでは見えなかったもの、なぜ出来ないのかと疑問に思っていたこと等が浮き彫りとなり、部門間の垣根を越える方策が引き出された。

最後に、「地域で守る」、「自分で守る」のグループごとの目標、戦略、方策の取りまとめに至った経緯を発表し、結果を共有した。

四面会議の結果を次ページに示す。





第4回 WG 開催状況

今までの担当者会議（WG）の進め方についての再確認がされた。

第3回 WG で取りまとめた目標、戦略、方策を踏まえ、「水害に強い地域づくり」に向けての戦略、作戦を、「自分で守る」、「地域で守る」というグループごとに行動計画（1次案）として取りまとめた。

行動計画（1次案）といったわかりやすい成果を協働で作り上げることで、より一層「水害に強い地域づくり」に向けた認識の共有化が図られた。

最後に、「地域で守る」、「自分で守る」のグループごとの行動計画（1次案）の取りまとめに至った経緯を発表し、結果を共有した。

行動計画（1次案）のとりまとめた結果はP. 1、2のとおりである。